

## 内之浦湾から得られた九州沿岸初記録のセンネンダイ

小枝圭太<sup>1</sup>・山田守彦<sup>2</sup>・本村浩之<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

<sup>2</sup> 〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

### はじめに

フエダイ科 Lutjanidae フエダイ属 *Lutjanus* はインド・太平洋から 46 有効種が知られており (Allen, 1985, 1995; Allen and Tablot, 1985; Iwatsuki et al., 1993, 2015), 日本近海には 25 種が分布する (林田ほか, 2012; 島田, 2013). センネンダイ *Lutjanus sebae* (Cuvier, 1816) は, ニューギニア島北東岸以東を除くインド・西太平洋およびハワイ諸島に広く分布し (島田, 2013), 日本国内では和歌山県田辺, 高知県須崎, 愛知県愛南, 兵庫県香住, 島根県浜田, 屋久島から西表島までの琉球列島, 小笠原諸島から記録されていた (島田, 2013).

2011 年 7 月 16 日に鹿児島県内之浦漁港において 1 個体のセンネンダイが活魚として水揚げされた。これは九州沿岸におけるセンネンダイの標本に基づく初めての記録となるため, その形態の詳細を記載し, ここに報告する。

### 材料と方法

標本の計測・計数方法は Allen and Tablot (1985) にしたがった。各形質をノギスにより 0.1 mm 単位で計測し, 体長に対する百分率で示した。標準体長は体長と表記した。センネンダイの生鮮時および生時の色彩の記載は, 固定前に撮影された鹿

児島県産の標本 (KAUM-I. 42049) のカラー写真に基づいた。標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

### 結果と考察

*Lutjanus sebae* (Cuvier, 1816)

センネンダイ (Figs. 1-2)

標本 KAUM-I. 42049, 体長 420.0 mm, 全長 509.3 mm, 尾叉長 491.5 mm, 鹿児島県肝付町内之浦湾 (31°17'N, 131°05'E), 2011 年 6 月 16 日, 潮路生産組合定置網に入網したの内之浦漁港に水揚げ, 山田守彦。

記載 背鰭条数: XI, 16; 臀鰭条数: III, 10; 胸鰭条数 17; 腹鰭条数 I, 5; 鰓耙数 5 + 11; 側線有孔鱗数 46; 側線上方鱗数 12; 側線下方鱗数 27。

体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 頭長 40.4; 吻長 17.6; 眼径 5.4; 両眼間隔 10.5; 眼下幅 12.2; 上顎長 15.1; 体高 72.5; 体幅 17.5; 尾柄高 13.0; 尾柄長 16.4; 背鰭前長 45.0; 臀鰭前長 68.6; 胸鰭前長 36.5; 腹鰭前長 39.4; 背鰭基底長 58.2; 背鰭第 1 棘長 7.3; 背鰭第 2 棘長 12.2; 背鰭第 3 棘長 12.8; 背鰭第 4 棘長 12.4; 背鰭第 5 棘長 10.5; 背鰭第 6 棘長 10.3; 背鰭第 7 棘長 10.0; 背鰭第 8 棘長 8.5; 背鰭第 9 棘長 8.9; 背鰭第 10 棘長 8.9; 背鰭第 11 棘長 10.0; 背鰭最長軟条長 20.5; 臀鰭基底長 17.8; 臀鰭第 1 棘長 3.4; 臀鰭第 2 棘長 8.7; 臀鰭第 3 棘長 11.5; 臀鰭最長軟条

Koeda, K., M. Yamada and H. Motomura. 2017. First records of Emperor Red Snapper *Lutjanus sebae* (Cuvier, 1816) from Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 137-140.

✉ KK: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: hatampo@gmail.com).



Fig. 1. Fresh specimen of *Lutjanus sebae* collected from Uchinoura Bay, Kagoshima Prefecture, Japan. KAUM-I. 42049, 420.0 mm standard length, 509.3 mm total length.



Fig. 2. Live individual of *Lutjanus sebae* (KAUM-I. 42049) kept in a tank of the Kagoshima City Aquarium.

長 23.6 ; 胸 鰭 長 36.9 ; 腹 鰭 棘 長 14.0 ; 腹 鰭 長 22.7 ; 尾 鰭 上 葉 長 26.3 ; 尾 鰭 下 葉 長 26.3.

体と頭部は側扁し、卵型。体高は著しく高く、腹鰭基部付近で最大となる。吻はやや尖る。体背

緑は吻端から頭後部まで直線的。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて直線的。眼は正円形で小さく、その中心は体軸よりはるか上方に位置する。両眼間隔はやや膨出する。鼻孔は2対で眼の前方やや下に位置する。唇は厚く、両顎の長さは同程度。両顎の歯は小さく、犬歯状の歯がまばらに並ぶが、その多くが厚い唇に埋没する。鋤骨に歯帯があり、歯帯中央部は後方へ突出しない。舌はよく発達する。前鰓蓋骨の後縁は微細な鋸歯状。前鰓蓋骨後部から下部にかけて無鱗域がある。頭部背面の被鱗域は眼の後端直上よりわずかに後方から始まる。背鰭、臀鰭、胸鰭、および尾鰭の基底は被鱗する。側線は完全で、鰓蓋上部から尾鰭基底中央にかけて体背縁に並走する。側線より上方および体側後半部の鱗はほぼ斜め上後方へ向かう。

背鰭起部は胸鰭基部および腹鰭基部直上に位置する。背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上よりわずかに後方。背鰭棘は第3棘が最長で、それより後方のものほど短い。背鰭棘間の鰭膜は、前方の棘間ほど欠刻が強く、第5棘以降はほとんど欠刻しない。第1・第2棘間では第1棘長の1/2程度、第3・第4棘間では第3棘長の1/3程度が欠刻する。背鰭軟条部はほぼ正三角形で、第7軟条が最長。軟条部の背縁は直線的で、後端で丸みを帯びる。臀鰭起部は背鰭第1軟条基底直下のやや後方に位置する。臀鰭棘は第3棘が最長で、軟条は第4軟条が最長。臀鰭の外縁は第4軟条を頂点とした三角形。胸鰭は尖り、第2軟条まで不分岐で、第5軟条が最長。それより下方のものほど短い。胸鰭後端は臀鰭起部直上を越える。腹鰭起部は胸鰭基部および背鰭起部の直下。腹鰭は短く、ただ腹鰭の後端は肛門に達せず、腹鰭起部と臀鰭起部の中間点を越えない。尾鰭は截形で、後縁がわずかに湾入する。

**鮮時および生時の色彩** 頭部と体の地色はピンク色。背鰭起部から眼を通り吻端、背鰭棘部基底中央から腹部、背鰭棘部基底後端から尾鰭基底下端にそれぞれ至る3本の暗赤色帯が走り、漢字の「小」の字にみえる模様を形成する。下顎は白色。彩光は赤色。背鰭は全体にピンク色で、棘部

から第7軟条の外側約1/3が暗色。臀鰭は全体にピンク色で、棘部から第4軟条の外側約1/2が暗色。胸鰭は一樣にピンク色の半透明。腹鰭は一樣に赤色で、各軟条間の鰭膜は暗赤色。尾鰭はピンク色で、上葉先端と基底下端から下葉先端にかけて暗赤色。生時は地色が白色で、3本の横帯と彩光は鮮赤色。胸鰭を除く各鰭の外縁はやや黒ずむ。

**分布** センネンダイはインド・西太平洋に広く分布する (Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; Allen and Erdmann, 2012; 島田, 2013)。日本国内では和歌山県田辺、高知県須崎、愛媛県愛南、兵庫県香住、島根県浜田、鹿児島県内之浦湾、屋久島から西表島までの琉球列島、および小笠原諸島から記録されている (具志堅, 1972; 市川ほか, 1992; 岩槻, 2000; 藤山, 2004; 三浦, 2012; 島田, 2013; 本研究)。

**備考** 本報告で記載した内之浦湾産の標本は、鋤骨歯帯の中央部が後方へ突出しない、側線より上方の横列が斜め上後方へ向かう、背鰭が11棘16軟条、臀鰭が3棘10軟条、鰓耙数が5+11、3本の横帯が体側に走ることなどの特徴がAllen (1985) や Anderson and Allen (2001)、島田 (2013) が示した *Lutjanus sebae* の特徴と一致したため、本種と同定された。

これまでセンネンダイは、日本国内において和歌山県田辺、高知県須崎、愛媛県愛南、兵庫県香住、島根県浜田、屋久島から西表島までの琉球列島、および小笠原諸島から記録されていた (具志堅, 1972; 市川ほか, 1992; 岩槻, 2000; 藤山, 2004; 三浦, 2012; 島田, 2013)。したがって、本報告の内之浦湾産のセンネンダイの標本は、本種の標本に基づく九州沿岸からの初めての報告となる。

センネンダイは沖縄県や鹿児島県奄美地方では延縄や一本釣りによる一定量の水揚げがあり、沖縄では「さんばな」「なんばん」「あかだい」など、奄美では「さんばらだい」と呼ばれて利用されている (具志堅, 1972; 横井, 1989; 藤山, 2004; 三浦, 2012)。しかしながら、南日本沿岸における記録は本研究による内之浦湾からの報告を含め散発的であり、これらの海域における本種

の記録は偶発的な分散によるものである可能性が高い。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、株式会社潮路および内之浦漁業協同組合の皆さまに多大なご協力を頂いた。また、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作成・登録作業などを手伝っていただいた。これらの方々には厚く御礼を申し上げる。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS研究奨励費(PD:26-477), JSPS 科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalog of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 125, 6: i-vi + 1-208.
- Allen, G. R. 1995. *Lutjanus rufolineatus*, a valid species of snapper (Pisces, Lutjanidae) with notes on a closely allied species, *Lutjanus bouton*. Revue française d' Aquariologie Herpétologie, 22 (1-2): 11-13.
- Anderson, W. D., Jr. and Allen, G. R. 2001. Lutjanidae. Snappers (jobfishes). Pp. 2840-2918 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vol. 1-3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Allen, G. R. and Tablot, F. H. 1985. Review of the snappers of the genus *Lutjanus* (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-Pacific, with the description of a new species. Indo-Pacific Fishes, 11: 1-87.
- 藤山萬太. 2004. 奄美の釣魚. 奄美共同印刷, 名瀬. 180 pp.
- 具志堅宗弘. 1972. 原色沖縄の魚. 琉球水産協会事務局, 那覇. 247 pp.
- 林田奈々・田中文也・瀬能 宏・岩槻幸雄. 2012. カドカワフエダイ(新称) *Lutjanus johnii* の日本からの初記録. 日本動物分類学会誌, 33: 13-16.
- 市川 聡・砂川 聡・松本 毅. 1992. 屋久島産魚類の概観, pp. 19-46. 屋久島沿岸海洋生物調査団(編). 屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書.
- 岩槻幸雄. 2000. センネンダイ. Pp. 334-335. 岡村 取・尼岡邦夫(編). 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Iwatsuki, Y., Tanaka, F. and Allen, G. R. 2015. *Lutjanus xanthopinnis*, a new species of snapper (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-west Pacific, with a redescription of *Lutjanus madras* (Valenciennes 1831). Journal of the Ocean Science Foundation, 17: 22-42.
- Iwatsuki, T., Akazaki, M. and Yoshino, T. 1993. Validity of a lutjanid fish, *Lutjanus ophuysenii* (Bleeker) with a related species, *L. vitta* (Quoy et Gaimard). Japanese Journal of Ichthyology, 40 (1): 47-59.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 島田和彦. 2013. フエダイ科. Pp. 913-930, 2001-2002. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 篠原士郎. 1962. 琉球産フエダイ科魚類(Lutjanidae)の研究(2). 琉球大学理学部紀要 理学篇, 5: 22-38.
- 横井謙典. 1989. 方言で調べる沖縄の魚図鑑. 沖縄出版, 浦添. 159 pp.